

○本時のねらい(わかる学力)

複数の資料を読み取り、江戸幕府が目指した日本の姿とその構造について、自分の考えを多面的・多角的に表現する。

《授業展開》

前提問題

【この3つの数字は何を表しているだろう。】

・鎌倉、室町、江戸時代(幕府)が続いた長さ

導入問題

【なぜ江戸幕府(徳川家)は長く続いたのだろう。】

個別探究 I

○資料を読み取り、理由をワークシートに記入する。

協同探究

○全体で意見交流を行う。

《予想される生徒の反応例》

- ・資料1…外様大名を遠くに配置し、反乱を起こさせないようにした。江戸周辺を譜代大名に固め、守ってもらった。鉱山や重要な港を支配し、経済力の向上につなげたから。
- ・資料2…要職には信頼できる譜代大名を任命し、政治の安定を図ったから。朝廷と西日本を監視する役所を設置し、反乱を起こさせないようにした。江戸幕府が全国を支配する仕組みをつくったから。
- ・資料3…大名に軍事力を持たせなかったから。参勤交代をさせることで大名の経済力を削ぐことができたから。江戸幕府と大名の間の主従関係を分かせたから。
- ・資料4…とりつぶしにより、大名の力を無くしたから。没収した土地を江戸幕府のものにし、経済力を高めたから。
- ・資料5…朝廷に政治的権力を持たせないようにしたから。

【追究型発問 I】(切り返し型)

「各資料のねらいは何だろう。」

→大名や朝廷に力を持たせない。江戸幕府のもとに権力を集中させる。反乱を防ぐ。

【関連付け発問】

「各資料に共通することは何だろう。」

→大名や朝廷の力を抑える。大名の経済力を低下させる。

【追究型発問 II】(設定型)

「大名や朝廷の力を抑えることで当時の社会はどう変化したのだろう。」

→江戸幕府が全国を支配することができるようになった。江戸幕府以外に力を持つ組織がいなくなった。

展開問題

「江戸幕府(徳川家)が目指した日本とは何だろう。」

【導入問題のポイント(よさ)】

- 様々な視点(徳川家、大名、天皇)や多面的(政治・経済・軍事)に考えることができる。
- 「長く続く」ことは「安定、平和」を意味し、その実現のための仕組みや理由を考察することで現代社会と通ずるものがあることに気づくことができる。

【考えやすい工夫】

- 全ての資料から読み取る必要はなく、自分が読み取りやすい資料から見てもよい。
- 複数の資料を提示することで、江戸幕府の政策を多面的・多角的に理解し、関連づけがしやすい。

【協同探究の進め方、工夫】

- 江戸幕府の支配の背景には経済力、他大名との経済格差があり、それを基に政治権力を高め、大名や朝廷の力を抑え、安定した平和な社会の実現につなげたことに気づかせる。
- 追究型発問や関連付け発問により、目的や理由の共通点を見だし、関連付けることができる。

【展開問題のポイント(よさ)】

- 江戸幕府が目指した日本の姿を考察することで、織田・豊臣と比較しながら江戸幕府の課題解決に向けた意識や行動に気づくことができる。